

京都市で発見されたセアカゴケグモ

近畿の各地で多数発見されているセアカゴケグモが、京都市内でも初めて南区と伏見区のテニスコートで見つかりました。いずれの場所でも多数の成体、幼体、卵のうが発見されていることから、すでに定着していたと思われます。



セアカゴケグモが発見されたテニスコート



周囲のフェンスの支柱の巣



セアカゴケグモの生息場所

セアカゴケグモとは

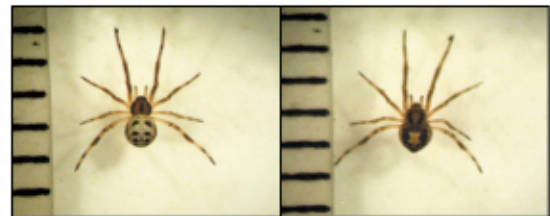
1 卵のう、幼体、成体について

セアカゴケグモは、卵、幼体、成体と発育します。卵は、クモの糸でできた卵のうという袋で保護されています。卵のうの中には、50個から300個の卵が入っています。卵は、やがてふ化し、幼体がでてきます。幼体は、数回、脱皮を繰り返す、成体となります。成体とは、繁殖することが可能な親のことです。

体長約2mmの幼体

2 特徴

セアカゴケグモは、オーストラリアなどに生息する種類で、1995年に大阪府下で発見され、大きな問題となりました。セアカゴケグモは、毒グモとして有名ですが、セアカゴケグモのほうから襲ってくるようなことはほとんどありません。体長は、メスが1cm前後で、オスは、3～5mm程度とメスよりずっと小型です。



背面

腹面

また、メスの成体は、腹部背面に朱色の「i」の字のような模様（表紙の写真参照）があります。腹面には、幼体を含むすべてのゴケグモ類の特徴である砂時計のような模様があります。

殺虫剤の効果

成体や幼体は、市販されているエアゾール式の殺虫剤を直接噴射すると駆除できます。卵は、卵のうで保護されているため、殺虫剤があまり効かないので、巣ごとかき取り踏みつぶすか、洗剤を入れた水に漬けておくと駆除できます。

テニスコート

今回の京都市内でセアカゴケグモが発見された場所は、いずれもテニスコートでした。巣は、テニスコートの側溝の金属製ふた、周囲のフェンスを支える金属製のポールやベンチの裏側などにありました。こうした巣の周辺にラケットケースやバッグを置いておくと、セアカゴケグモがバッグの中に入り込むことが考えられます。ラケットケースやバッグは、このような場所の近くには、置かないようにしましょう。

セアカゴケグモについてのお問い合わせは、最寄りの各保健所へ。